

アフリカ帰国研修員フォローアップ

A circular map of the African continent is centered on the page. Two orange circular markers are placed on the map: one in the eastern part of the continent (Ethiopia) and one in the southern part (Tanzania).

エチオピア

タンザニア

報告：中島 康紀 コースリーダー

2017年2月14日

(公財)北九州国際技術協力協会
研修部

1. 調査目的

- ①タンザニア及びエチオピアの現状を視察して理解度を増しアフリカのニーズに沿った効果的な研修と課題を整理する。
- ②中小企業の実体と中小企業支援の取り組みについて把握し、研修プログラムに反映する。
- ③帰国研修員がアクションプランの実施に際して課題や懸案となっている事項について聴取し、日本での取り組みに関する補足的説明やアクションプランに対する補完的アドバイスを行う。

2. 調査団の構成

氏名	担当業務	所属
横尾 浩一郎	統括／セミナー講師	JICA本部
田中 祥子	研修企画／調整	JICA九州
中島 康紀	研修プログラム企画 研修コースリーダー	北九州国際技術協力協会

3. 出張期間

2016年12月5日 ～ 2016年12月15日

4. 今回面談した帰国研修員(5名)



Generated by PTOLEMY

エチオピア

①アントニオさん	2013年度研修員 起業家育成・中小企業活性化(B)
②マリアムさん	2015年度研修員 輸出振興／マーケティング戦略(B)

タンザニア

①ウェインシャットさん	2015年度研修員 輸出振興／マーケティング戦略(B)
②エジェグさん	2015年度研修員 輸出振興／マーケティング戦略(B)
③ムルハビットさん	2016年度研修員 起業家育成・中小企業活性化

2013年度 起業家育成・中小企業活性化(B)
【JICA受入れ研修時の研修員写真】



今回面談した帰国研修員

2015年度 輸出振興／マーケティング戦略(B)
【JICA受入れ研修時の研修員写真】



今回面談した帰国研修員
の皆さん



2016年度 起業家育成・中小企業活性化(B)
【JICA受入れ研修時の研修員写真】



ムルハビットさん



ムルハビットさん

今回面談した帰国研修員

参加研修
コース 2013年度
アフリカ地域 起業家育成・中小零細企業活性化(B)

研修員名 アントニアさん (Ms. M. Antonia) 【タンザニア】

所属 中小企業振興公社

APテーマ 中小企業製品のための国内市場アクセスの有効化

近況

◇研修で情報(共有)の大切さを学んだので
情報改善が進んでいる。

- ①マーケットアクセスのため農業の組織化を図っている。
- ②製品展示場を設け製品紹介だけでなく情報交換・共有の場としている。
- ③パッケージは、農家が直接メーカーとの取引が難しいのでSIDOが協同購入とした。
- ④最終製品取り組みのため下記の活動実施中。
製品PR⇒ニュースレター、ちらし、Webサイト、展示スペース確保、協同出資や信用保証のしくみ。
- ⑤トレーニング、インフォメーションセンターの情報チェーン化

所感

- ・研修だけでなく本人の能力・意欲に負うところが大ではあるが、研修で得たことを上手く活用してより良い結果を得ている好例だと思う。



インタビュー中のノルマさん

<p>参加研修 コース</p>	<p>2015年度 先進国市場を対象にした輸出振興／マーケティング戦略(B)</p>	
<p>研修員名</p>	<p>マリアムさん (Ms. M. Mariam) 【タンザニア】</p>	
<p>所属</p>	<p>産業貿易投資省</p>	
<p>APテーマ</p>	<p>品質改善能力向上を通して国内外の農作物市場を強化する</p>	
<p>近況</p>	<p>◇<u>有機農業を武器に農家を強化する様々な訓練を行っている。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ①本年2～4月に2段階に分けてLead Famersの研修を実施した。(農業技術と生産性) ②さらに6～7月に農家、加工業者、輸出業者を対象にWork Shopを開催した。 ③研修からの技術や知識の習得だけでなく、各ステークホルダーの良好な関係が得られた。 ④訓練以外で実施している事、やらねば習い事。 <ul style="list-style-type: none"> ・農産物加工や製品ブランド化を支援するための資金調達手段の簡素化。 ・製品付加価値を高めるための農産物加工に関する技術力の向上。等々 	 
<p>所感</p>	<p>・アクションプランに沿った行動で頑張っていることが良く理解出来たが、あまりアクションプランに拘らず、課題解決に役立つ情報入手とその活用方法に的を絞った方がフォローが容易と感じた。</p>	

インタビュー中のマリアムさん

<p>参加研修 コース</p>	<p>2015年度 先進国市場を対象にした輸出振興／マーケティング戦略(B)</p>	
<p>研修員名</p>	<p>エジェグさん (Mr. G. Ejigu) 【エチオピア】</p>	
<p>所属</p>	<p>貿易省 輸出促進局</p>	
<p>APテーマ</p>	<p>日本市場へのゴマの輸出振興のための調査</p>	
<p>近況</p>	<p>◇<u>アクションプラン実施状況</u></p> <p>①局長レベルまでAPテーマを提案したが、その後、大臣決裁のところまで進まなかった。</p> <p>②研修で役立った科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング ・マーケティングリサーチ ・ブランディング 	 
<p>所感</p>	<p>文化やシステムの違いによるものと思われるが、日本のようなボトムアップが進んでいないためか、アクションプランの実行が進んでいなかった。</p>	

インタビュー中のエジェグさん
(右側の男性)

<p>参加研修 コース</p>	<p>2016年度 アフリカ地域 起業家育成・中小企業活性化</p>	
<p>研修員名</p>	<p>ムルハビットさん (Mr. A. Muluhabit) 【エチオピア】</p>	
<p>担当</p>	<p>中小製造産業開発庁</p>	
<p>APテーマ</p>	<p>事業開発とイノベーション支援を通じて品質・技術応用での中小企業の改善</p>	
<p>近況</p>	<p>◇<u>アクションプランの実施状況</u></p> <p>①11月にトレーニングを実施した。 ②地域の皮革担当者(Training of trainer)が29名参加。 ③トレーニング内容は、KAIZENの実施、技術の導入、付加価値商品の開発について。 ④彼の提案(AP)は、組織の実施事項に組み込まれ、今後の登庁活動として下記活動を充実化していく。 ・インキュベーター事業 ・起業家に対する技術支援 ・国内35大学と共同した起業家への経緯支援 ⑤研修で役立った科目 ・マーケティング、中小企業大学 ・中小企業大学にヒントを得て大学にSME科を設置する。(起業家育成)</p>	 
<p>所感</p>	<p>研修を成果を組織財産とし、さらに組織的活動へ結び付けている。非常に素晴らしいケースである。今後さらに成果を上げることが期待したい。</p>	

インタビュー中のムルハビットさん

全体感

帰国研修員インタビューを通じて、各自のアクションプラン達成レベルに差はあるものの、皆具現化に向けて努力している姿を確認ができました。研修で得たことを個人財産にすることなく組織財産、組織行動に結び付けていることは大変素晴らしいことであり、これぞ研修成果であると思います。成果をさらに上げるためにも研修内容のブラッシュアップはもとより、研修終了後のサポートやフォローアップを確実に実行することの重要性を痛感しました

今後の研修への反映について

「アフリカ地域 起業家育成・中小零細企業活性化」コース

- ・本コースは、政策面よりどちらかというと実行面を重視した単元目標であり研修カリキュラムとなっている。その意味からも研修は中央省庁の政策官よりも実行部隊が望ましいと考える。次回のGI(応募要領)へ反省したい。

「先進国市場を対象にした輸出振興／マーケティング戦略」コース

- ・アフリカの場合、輸出品目、質、量ともにまだこれからである。従って何より売れる・良い商品づくりが重要である。本研修ものカリキュラムもどちらかと言えば商品づくりに軸足を置いたものであるが、さらに気付きを与えるような具体的商品開発事例を盛り込んでいきたい。

Seeing is Believing の意の通り、ごく一部とはいえアフリカの製造業の一端に触れ、各機関の関係者とも知り合えたことは今後の研修を考える上で何者にも変え難い経験でした。このような機会を与えて頂いた事を、深く感謝申し上げます。